

(法第28条第1項関係様式例)

2007年度事業報告書

NPO法人 エコロッジ協会

1 事業の成果

本年度実施した事業は下記の通りである。

1) ベナンエコツーリズム円卓会議 [2007年01月15日(月)]

TABLE RONDE NATIONALE SUR L'ECOTOURISME AU BENIN



ベナンエコツーリズム円卓会議が1月15日にコトヌーの国際会議場にて催された。西アフリカのベナンでは第1回目のエコツーリズム会議となる記念すべき式典であり、セイブー・トレバ観光大臣も出席され、国策としてエコツーリズムの発展を願っているとの話があった。この円卓会議は観光省(MTA)とエコベナン(ECO-BENIN)が以下の目的を達成するために催した。

- 1) 持続可能性を確かなものにするため、エコツーリズムの計画、運営、規制を含めた戦略や方法を議論する。
- 2) ベナンにおけるエコツーリズム推進行動計画を検討する。
- 3) ベナンにおけるエコツーリズム指導方針や推進行動計画を普及させる。
- 4) 推進行動計画の技術的事柄また資金調達について検討する。
- 5) 官民及びNGO間で締結される透明性の高い契約についての懸念を共有する。



エコロジ協会は、会議が行われる5日前から現地入りし、ベナンでエコツーリズムを推進する上での注意点と事例発表をするとともに、問題や展望など客観的に述べた。

円卓会議における最終提言は以下の通りフランス語と英語にまとめられた。

英語版

Final statement

Considering the most varied ecotourism potentialities, the opportunities of wealth and employments creation, simply stated, the powerful economical lever that constitute the tourism activities;

Considering the continually growing ecotourism market segment at the world-wide level;

Considering that the anticipations of the United Nations World Tourism Organization puts Africa as the first privileged destination for international tourism for the coming years;

Considering the competences of communities and groups in application of the texts governing decentralization in the management of protected areas;

We, Participants at the National Ecotourism Roundtable hold at the International Conferences Center, Cotonou Benin, on January 15th 2007, after wide and fructuousness discussions and harmonization on ecotourism issues for a basis sustainable development,

recommend that the strategic action plan takes into account all the ecotourism, patrimonial and socio-cultural dimensions;

recommend local elected authorities to integrate in their Communal Development Plan ecotourism development in a realistic vision;

recommend to local elected authorities the preservation of the ecotourism lands heritage;

ask the scientific committee the pursuit of the long-term analysis for the definition of an adapted vision to our means and natural resources;

wish that ecotourism funding in Benin be in the priorities of our partners for development.

Cotonou, January 15th, 2007

2) 宿泊施設向け研修会in知床[2007年01月19日(金)]



2006年7月8日に催した宿泊施設向けエコツーリズム研修会inウトロに続き、宿泊施設向け研修会「中小規模の宿泊施設ではじめる省エネ」をウトロの旅館つくだ荘で行い、特に以下の点について述べた。

[客室]暖房器具、照明器具、給湯

[廊下]非常灯、暖房のゾーニング

[洗面所・トイレ]センサーライト、節水コマ

[厨房]冷蔵庫、生ごみ処理

[食堂]自販機、給湯、照明、暖房のゾーニング、熱交換型換気扇

[大浴場]温泉熱の熱交換利用、換気

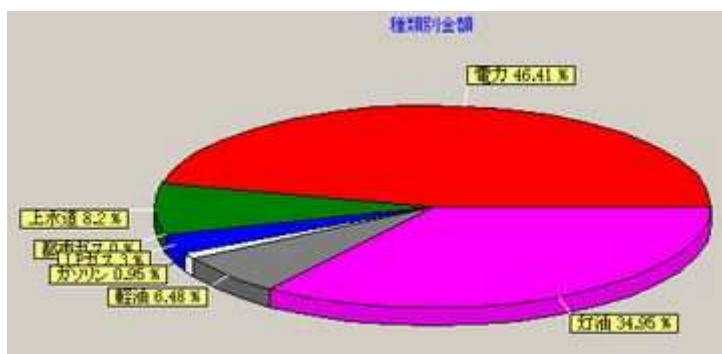


3) 宿泊施設向け研修会in知床羅臼[2007年01月20日(土)]



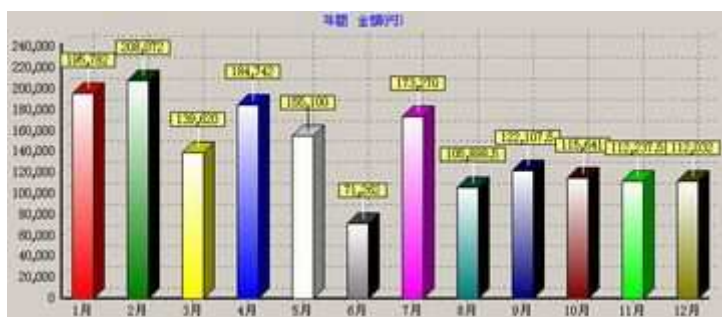
2006年7月8日に催した宿泊施設向けエコツアーリズム研修会inウトロに続き、宿泊施設向け研修会「中小規模の宿泊施設ではじめる省エネ」を羅臼の民宿本間で行いました。今回は実際の光熱費だけではなく、二酸化炭素の排出量等を以下の項目を入力して算出し、宿屋の経営がどのように環境負荷をかけているのかを数値で分かるように工夫した。データは請求書の数値（使用量、基本料金）や最も適切であると思われる数値（ゴミ袋）を過去12か月分集めて頂いた。

- 1) 電力(kwh)
- 2) 上水道（立米）
- 3) LPガス（立米）
- 4) ガソリン（リットル）
- 5) 軽油（リットル）
- 6) ゴミ（45リットル袋）



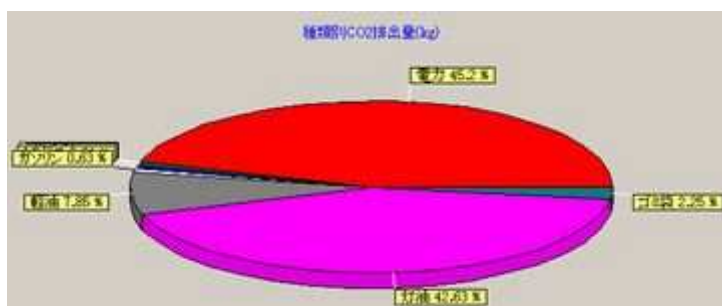
光熱費別金額

光熱費別では、年間通して最も多いのが給湯・照明・調理用の電力、そして冬季を中心に暖房用の灯油と続き、金額の約46%を占める電力と約35%の灯油は省エネの効果が出やすいと考えられた。



月別年間光熱費

月別で光熱費を比較すると、電気代はお客さんの多い7月から10月が約3割増えるが、その他の月は安定しており、冬季1月から4月はお客さんの入り込み数にあまり左右されずに灯油代が著しく高くなっている。（グラフでは給油する必要がなかった3月は少なく表示されている）また除雪用のガソリン代が冬季のみ必要等、季節による光熱費の変化がとても興味深い結果となった。



光熱費別二酸化炭素排出量

一見すると、料金図との差があまりないように思えるが、灯油のみでは7%UPしている。二酸化炭素に換算する係数が大きいことに起因しており、灯油での暖房に依存することは環境に優しいとは言えないことが伺える。

年間を通してこの民宿が排出する二酸化炭素は約45トン、最も少ない6月で1.6トン、最多の2月は約4倍の6トンとなっている。寒帯林での二酸化炭素吸収量は1ヘクタールで約22トン、炭素相殺には約2ヘクタール分の森林が必要。樹高2メートルまでの落葉広葉樹高木・まつ類だと3,462本の植林が必要という結果になった。（出典：樹木における二酸化炭素吸収量の算出法）

経済面での検討が必要ですが、更に環境に優しく光熱費が安くなるために以下の提案をした。

- ・ 太陽光・太陽熱などの再生可能エネルギーによる暖房、給湯への切り替え
- ・ 夜間電気料金への切り替え（エコキュート等）
- ・ 新しく高効率の冷凍冷蔵庫、業務用冷凍庫への買い替え

4) 全国エコツーリズム大会in白川郷[2007年03月02-04日(金-日)]



3月2日から4日にかけて開催された全国エコツーリズム大会に参加し、4日の分科会4[エコツーリズムの拠点としての「民宿」を見直そう～合掌造り囲炉裏談義]のコーディネーター役を務めた。

会場は世界文化遺産飛騨白川郷荻町にある神田家。この合掌造りは江戸後期に石川県の大工により十年の歳月をかけて建造されたと云われており、通常は日中だけに公開されているお屋敷。出席者は大会登録者が20名、実際に荻町で民宿を営んでおられる方が7名、その他6名（記録係、役場担当、司会等）の計33名。当協会からは役員は4名が参加しました。

8時45～9時30分



出席者全員に自己紹介を兼ねて以下を答えて頂きました。

- 1) 氏名
- 2) 所属、出身
- 3) なぜこの分科会に出席したのか
- 4) 分科会の成果としてみたいもの

9時30～10時



分科会に参加された理由と所属が分かった上で、5つのグループに分かれ、民宿の役割は何であるべきか、また現状の問題は何であるかをいろんな見地から協議して頂いた。

10時～10時40分



以下のグループによる発表をまとめた。

グループ1：エコツアーリスト

- ・宿屋さんでどんなアクティビティーがあるのかを明確にしろしてほしい。
- ・忙しいのに無理に接客する必要はない。無理したら分かってしまう。

グループ2：宿屋運営者

- ・本当にお客さんが満足して帰られているのか不安。
- ・合掌造りの間取り上、プライバシーの確保ができない。
- ・無理したら続かない。→ここでエコツアーリストと意見が一致！
- ・囲炉裏を維持するための薪の調達は骨が折れる仕事。
- ・遺産ブーム前の学生等による長期滞在者が激減。

グループ3：ツーリスト

- ・ 本当の笑顔（作り笑いでない）が見たい。
- ・ 地元の食材を楽しみたい。
- ・ 清潔感も大切。民宿だからということで片付けない。
- ・ 客との時間をもっと割いてほしい。

グループ4：行政

- ・ 民宿はエコツーリズムの最前線、拠点である。
- ・ お客同士をつなげる場である。
- ・ 生活の臭いを感じる場である。
- ・ 万人向けでなく、地元民の意思を反映した客層を呼び込むためのガード（フィルター）の役目を担っている。

グループ5：旅行業者

- ・ 旅行者、宿泊施設運営者、観光業者の全ての産業について勉強している。
- ・ 情報発信を業者向け、ユーザー向けに分けてしてほしい。
- ・ 滞在を促す情報の強化が必要。
- ・ 現在は合掌造りを見にくるだけのテーマパーク化が問題、通過型を誘引している。

10時40分～11時

コメンテーターの小林氏から秋神温泉での集客についての取り組みをお話頂き、白川郷で取り組むべき活動についてアドバイスをお願いした。

- ・ 先人の知恵とロマンを大切にする。
- ・ 山村文化や遺産の素晴らしさに誇りを持ち、それを学ぶ。
- ・ 話のきっかけは自分で作り出し、お客様に喜んでもらう。
- ・ 民宿では「だんな」「主人」と呼ばれるが、その関係は望ましくない。
- ・ 山中の一軒屋で集客に成功した「氷点下の森」。マイナスの雪をプラスへ。

以上の内容を分科会報告会（全体会）にて発表致した。

5) グローバルエコツーリズム会議inオスロ[2007年05月15日(火)]



5月14日から16日にかけてノルウェーのオスロにて73ヶ国から約450名が集まるエコツーリズムの国際会議に出席し、発表をした。会場はオスロ市を見渡せる Holmenkollen Park Hotel Rica。

2002年国際エコツーリズム年から5年が経過し、国際エコツーリズム協会 (TIES) ・国連環境プログラム(UNEP) ・エコツーリズムノルウェーが共催した大イベントでは全体会の他に4つの分科会が用意された。

テーマ1) : Ecotourism and Local Sustainable Development

テーマ2) : Ecotourism and Nature Conservation

テーマ3) : Communication, Education and Global Branding for Ecotourism

テーマ4) : Critical Issues and Current Trends in Ecotourism

分科会II.4のモデレーターはエコロジ協会海外顧問でもあり、エコロジ建築家のヒテッシュ・メータ氏、もう一人の発表者はノルウェーの建築家及びパーマカルチャーデザイナーのフェデリカ・ミラー氏。サブテーマはArchitecture & Landscaping in Ecotourism (エコツーリズムにおける建築と造園)、こちらで“The Latest in Innovative Technologies” (「日本が誇る革新的な技術」：邦題) を紹介した。分科会会場には宿泊運営者・建築家・NGO関係者等による約50名の参加があった。



発表内容は

- 1) エコロッジ協会の紹介（日本の加盟施設&海外パートナー施設）
- 2) ハイドロテクト（TOTO社）
- 3) 発電床（速水氏）
- 4) 電気のいらない自動ドア（コスモテック）
- 5) 燃料電池コージェネ（東京ガス・パナソニック）
- 6) エネルギーマネジメントシステム(EMS)
- 7) 地熱利用空調（ジオパワー）

このような新技術を導入すると宿泊施設には以下のようなメリットがあると考えます。

- 1) 省エネ、長寿命化、保守管理等を通じて必要経費の削減
- 2) サステナブル機器導入による環境保護への貢献
- 3) 客寄せや環境教育に使う新技術の公開
- 4) 視察等による集客
- 5) メーカーへの報告書提出等による設置費優遇

6) エコロッジ説明会2in札幌[2007年05月22日(火)]

2006年10月に行った「小さな宿屋でも出来る省エネ・エコ化セミナー」in札幌に続く第2回目の説明会は（財）日本ユースホステル協会が行う全国ペアレント研修会の一部として開催された。北海道ユースホステル協会の事務局がある札幌国際ユースホステルにて「環境に配慮した運営で差別化する宿泊施設のあり方と先進事例」と題して説明を行った。



説明会の内容は以下の通り；

- 1) 増え続ける観光客数
- 2) サービスの低下、環境負荷倍増
- 3) 消え行く「売り物」の自然
- 4) ユースホステル+ α の時代へ
- 5) エコロッジとは？
- 6) 事例発表1：コスタリカ・ラパ・リオス
- 7) 事例発表2：モンゴル・スリーキャメルロッジ
- 8) 認定及び推奨制度導入のメリット
- 9) チェックリスト項目説明（89-110）



・ユースホステル+αの時代へ

ユースホステルの目的は自然の偉大さを知り、自然を愛護し、自然を保護することを薦めるとともに、世界各地の町や村の持つ文化的価値を認識させることによって、青少年の教育を促進することとしている。ただ低料金等で選択される客層に変わりはなく、時代と共に稼働率が落ちているのが現状。多くの道内のユースホステルは自然環境の豊富な立地にあり、自然という資産を守りながら最大限に集客することが望ましい。またユースホステル特有の国内外のネットワークを活用し、老若男女に対応できるアクティビティを提供し、古き良き時代に固執しない柔軟な経営戦略を練ることが重要と説明した。

7) アースガーデン宿泊体験&落ち葉をふみしめて歩くin美山・京都 [2007年11月17-18日(土・日)]



京都府南丹市美山町にある加盟宿泊施設アースガーデンにてパーマカルチャーのワークショップ及び宿泊施設としての環境配慮を実際に施設を歩いて勉強する宿泊体験を行った。2日目は原生林が多く残る芦生の森を紅葉と落ち葉を楽しみながら歩き、美山の持つ自然の大切さを学んだ。

宿泊体験と芦生の森トレッキングの工程は以下の通り；

■日時 11月17日（土）～18（日）

▽17日

- 14:30 現地集合
- 15:00 パーマカルチャー入門講座
- 19:00 終日アースガーデンにて会話と食事

▽18日

- 07:45 朝食後、パーマカルチャーガーデン案内
- 09:00 芦生の森へ移動、「落ち葉をふみしめて歩く」
- 15:00 解散

17日：

◎ワークショップ◎

京都と兵庫から合計5名が集まった受講生5名はアースガーデン到着後、植月講師によるパーマカルチャー入門講座を受けた。

講座内容は以下の通り；

▼パーマカルチャーの基本原則

- 1) 相互に関連した配置
- 2) 多機能性
- 3) 多くの要素による重要機能の維持
- 4) 効果的なエネルギー計画
- 5) 生物資源の活用
- 6) 多様性
- 7) エネルギーの循環
- 8) パターンの活用
- 9) 小規模集約システム
- 10) 自然の遷移
- 11) 接縁効果
- 12) 基本的な心構え

コンパニオンプランツリスト、区域計画、高低・斜面の利用、相互関連的位置づけ、ギルド、雑草対策例、都市や郊外住宅でのスペース活用等に関する参考資料も配布された。



18日：

パーマカルチャーガーデン案内



落ち葉をふみしめて歩くin美山

午前9時に芦生研究林入口駐車場で集合し、保険に加入、料金の支払い、荷物・服装の確認、注意事項を聞いた後、自然学校の車両にて出発。



今回の宿泊体験では美山が持つ自然の豊かさに触れ、実際に自然を楽しめる速度で歩くことでその大切さを体感した。このような環境で、少しでも負荷軽減に努めた運営をし、地球に配慮した建材を選択し、自然共生を目指す施設にて宿泊体験ができたことは、参加者にとって今後旅行形態の選択肢になることを願う。